

12月13日

殉教者おとめルシヤ

Luzia / Lucy

(304年シシリア)



Saint Lucy

by Domenico Beccafumi

1521

Pinacoteca Nazionale, Siena

伝説によれば、シシリアの裕福な家庭に生まれたルシヤは、熱心な信仰から、高貴な家柄の男性からの求婚を拒否した。その後、その男性は、彼女の美しい目が昼も夜も自分を苦しめるとして、不満を告げたところ、ルシヤは、自分の目をえぐり出し、彼の元へそれらを送り届け、自分を静かにさせておいてほしいと懇願した。それに対して、神は憐れみ、ルシヤにそれまで以上に美しい目を授けたという。彼女は、所有するすべての富を貧しい人々に分け与えたが、そのことが求婚者を非常に怒らせることとなった。彼は、ルシヤを官憲に引き渡し、首に剣を刺し貫かれ、殉教した。伝説によると、秘跡が行なわれるまでは、奇跡的に息を引き取らなかったという。

聖ルシヤは、本、あるいは皿や貝殻を持って描かれる場合が多く、それらの上には二つの目玉が置かれている。目玉の付いた頭蓋骨を手している姿もある。ルシヤの名前が「光」を意味することにより、ランプを持っていることもある。

この時期、日照時間が非常に少なくなるスウェーデンなど、スカンディナヴィアの国々では、この聖ルシヤの日を光を用いた非常に豊かな慣習を

もって祝う。おとめの祝祭として、一家の子どもたちのうちで一番年上の娘がルシヤに扮して白いドレスに身を包み、火をともしたろうそくの冠をかぶって、教会へ行進する。このときに歌われる有名なナポリ民謡「サントルチア」は、この聖人のための歌である。

(M)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者おとめルシアに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン